

## はじめに - 労働法の意味 -

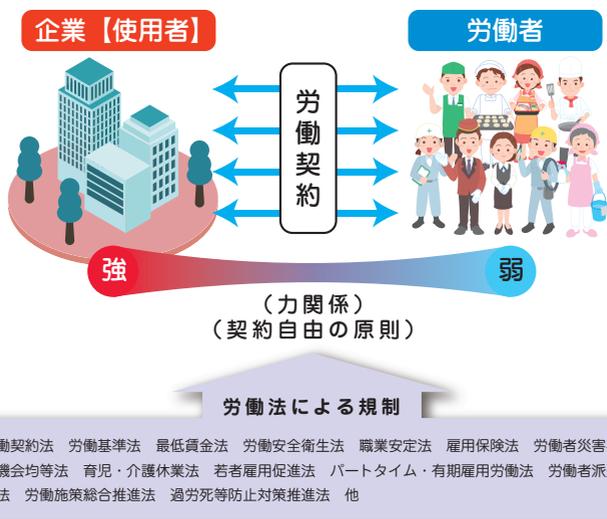
学校を卒業して企業等に就職すると、事務所・工場・店舗などの職場に配属され、1日8時間等の決まった時間、使用者や上司の指示に従って働くことになります。

自分で事業を営むなどの一部の人を除き、大部分の人は、生活するため、誰かに雇われて働かなければなりません。就職して仕事をするということは、法的には、企業との間で「企業の業務命令に従って働きます」・「賃金を支払います」という約束をして、お互いにその約束を守り続けることを意味します。

一般的に、働く人より、雇う人の方が有利な立場にあり、働く条件や環境などは雇う人の思いどおりに決まりがちです。

そこで、働く人の健康や安全を守り、また人間らしい生活を送ることが出来るためのルールとして労働法（労働基準法をはじめとする労働関係法規の総称）が発展してきました。

労働法の知識を持っているかいないかで、そのあとの判断が全く変わってくることもあります。労働トラブルを回避したり、巻き込まれた際に適切に対処したりするためには、労働法についてよく知っておくことが非常に重要です。



2020年以降、感染症の影響によって企業の採用活動におけるオンライン化が普及するなど、学生の就職活動を取り巻く状況が大きく変化しました。このような状況の中で、納得のいく就職活動を行うためには、十分に考え抜いた選択をすることが大切です。